

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター (第11回)

ミャンマーでは新年を祝う水かけ祭りと一緒に祝日(4月13~21日)も終わり、5月に入ってようやくいろいろなことが動き出したという今日此頃です。今月初旬は雨季に入る直前ということもあって、日中は毎日40度を超える高温で、一歩屋外に出れば汗だくになるという状況でしたが、18日頃から本格的な雨季が始まったようで毎日雨天が続いています。気温も30度を少し上回る程度で、それまでより10度近く下がりましたので感覚的には涼しく感じている人が多いようです。しかし、実際には蒸し暑いことには変わりはなく不快指数は上がっています。これからミャンマー現地ではしばらく太陽を見ない日々が続くそうです。

新しい教育省、誕生!

昨年から行われてきた教育省の再編がこの4月に形式的には完了し、新たな部局が正式に業務を開始しました。前回のニュースレターでその概要についてはすでにお伝えしていますが、一部不正確な部分もありましたのでここで改めて発表させていただきます。

新しい教育省は、以下のように7局から構成されました。ただ、各局のスタッフや施設などは、これから詰めていくようで、現段階ではまだまだ流動的な状況です。

高等教育局	(Department of Higher Education: DHE)
教師教育訓練局	(Department of Teacher Education and Training: DTET)
基礎教育局	(Department of Basic Education: DBE)
人材教育計画局	(Department of Human Resource and Education Planning: DHREP)
ミャンマー教育研究局	(Department of Myanmar Education Research: DMER)
ミャンマー試験局	(Myanmar Examination Board: MEB)
ミャンマー語及び言語教育局	(Department of Myanmar and Language Education: DMLE)

注: 橙色の網かけは CREATE と直接関係ある局

教育省の新体制

そこで CREATE との関係ですが、カリキュラム・教科書に関する内容は DMER、教科書の印刷に関する内容は DBE の担当となります。また、現職教員に対する新カリキュラム導入研修は DBE、教員養成校のカリキュラム開発に関する内容は DMER、教員養成校の教官に対する研修は DTET の担当とのことです。加えて、教科書の査読専門官が DMLE に異動になったということもあり、もしかすると DMLE も教科書編集に関する内容に関わってくる可能性もあります。

これまででは、すべてが教育計画訓練局 (DEPT) の担当で、同局と調整すればよかったです。新体制では DMER、DBE、DTET の三局 (場合によっては DMLE を含め四局) と調整しなければなりませんので、非常に複雑になってくるのが予想されます。

カリキュラム・フレームワーク、ようやく承認！

長らく懸案であったカリキュラム・フレームワークがようやく承認されたという連絡を教育省から5月15日に受けました。ご存じのように、カリキュラム・フレームワークの原案は2014年6月に作成され、その後、教科別カリキュラム委員会（SWC）を二度（2014年7月及び10月）開催し、その内容について精査した上で、最終版を同年10月下旬に教育大臣に提出していました。ところが、教育大臣からは何のコメントもなく差し戻され、未承認の状況が続いていました。JICAをはじめ、関係する開発パートナー（UNICEFやADBなど）も幾度にもわたって教育省及び教育大臣に対して、一刻も早く承認してほしい旨のメッセージを送り続けていましたが、なかなか状況は好転しませんでした。

ようやく教育省が重い腰を上げたのが今年の2月中旬でした。突然、教育省がカリキュラム・フレームワークに係る会議を三日間に亘って開催し、教育省関係者、教科別カリキュラム委員会のメンバー、教員養成校の教官、開発パートナーなど200名を超える参加者を招いて集中的な議論が行われました。JICAをはじめ開発パートナーは、この会議をきっかけにカリキュラム・フレームワークの承認はもうすぐではないかと推測していましたが、3月、4月と二カ月間、何の進捗も伝わってきませんでした。

このような状況の中、今月5月15日に突如、カリキュラム・フレームワークが承認された旨の連絡が教育省からあり、正直、CREATE一同、非常に驚いています。この承認の裏には、加藤総括が5月12日にネピドーで教育省の新次官と面談した際、カリキュラム・フレームワークの承認の話を持ち出し、次官がそれに対し積極的な対応をすることを約束されたこと、また教科別カリキュラム委員会の座長でもあるウー・タン・ウー氏が教育大臣に対して承認するように強く求めたこと、などの相乗効果で突然の教育大臣の承認に至ったのではないかと考えています。いずれにしても、カリキュラム・フレームワークが正式に承認されたことで、CREATEの教科書開発作業も順調に進んでいくことを期待しています。

CREATEの1周年記念パーティー開催！

去る5月22日（金）にプロジェクト事務所の近くの火鍋屋さんでCREATEの一周年記念パーティーを行いました。参加者は現地にいるプロジェクト専門家とCREATEのスタッフで、総勢21名でした。振り返れば、CREATEが正式に開始されたのは2014年5月25日で、第一陣として、田中専門家と今堀専門家、宮原専門家の3名が同日から業務を開始しました。その数日後に、加藤総括、川島専門家、相馬専門家、山岡専門家、タン専門家が次々に現地に入れられ、優秀な現地スタッフのリクルートのために履歴書の検討及び面接を連日繰り返したのを思い出します。火鍋屋さんでは、皆さん、この1年を振り返りながら、週末のゆったりとしたひと時を過ごしました。



コラム：KGの不思議？

すでに何度もミャンマーに来ている私ですが、「新しいミャンマーの教育制度について正確に述べよ」と言われても、いろいろと不明な点が多く、これまでなかなか正確に述べられませんでした。特に、新しく創設されるKGについてはそのことが顕著でした。そこで、私自身、新しく策定された法規はもちろん、現在、教育改革に中心に関わっておられるミャンマー関係者の方々にインタビューを行い、ようやくその像が明確になってきました。ただし、論理的に理解するにはまだまだ未解決なことが多々あります。

今回は、皆さんと一緒にクイズ形式で新しいKGの位置付けとその不思議について考えていきたいと思います。

まず、新しく策定された新教育基本法（案）を見てみましょう。第五章にKGについての以下のような記述があります。

第五章 教育制度

16条 a. 基礎教育は以下に示すように三つの段階に分けられ、KG修了後に続く12年間の教育を指す。

- i. 初等教育
- ii. 中学校教育
- iii. 高等学校教育

b. KGは初等教育の土台として位置付けられる。

17条 義務・無償教育は初等教育において実施され、段階的に拡大することとする。

18条 a. 5歳に達した子どもはKGに入学する。

b. 6歳に達した子どもは初等教育の第1学年に入学する。

さて、以下、皆さんに考えていただきましょう。

質問1：KGは初等教育でしょうか？ ①初等教育である、②初等教育ではない

質問2：KGは義務教育でしょうか？ ①義務教育である、②義務教育ではない

質問3：KGは無償教育でしょうか？ ①無償教育である、②無償教育ではない

正解は、本ニュースレターの1ページ目の右下にありますのでご確認ください。

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）

編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）